

表紙解説

この狛犬は米水津の立岩神社の狛犬の一つです。

狛犬は古代インドで仏の両脇を守護するライオン像を置いたのが始まりです。古代エジプトやメソポタミアの神様を守るライオン像もその源流とされています。

日本には唐の時代に中国の獅子が、仏教と共に朝鮮半島を経由して入ったとされています。

日本ではこの動物を犬と勘違いして高麗犬として紹介しています。そのため高麗ニこま、から狛犬とよばれるようになりました。

狛犬は奈良時代法隆寺の五重塔の初壁面に書かれています。

平安時代は、宮中の御簾、御帳台の四隅に「大いなる白銀の狛犬四つ」に香炉をとりつけて重しとして使用しています。

形は口を開けた阿形と口を閉ざした呬形の二つが対となっています。表紙は呬形の形で、古いものは頭に角がついています。

鎌倉時代頃からは略式化され石、陶器、木等で作られています。各地のお宮の狛犬の形の違いや由来を調べるとまた面白いと思います。



〈阿形の形〉

編集後記

会誌二三号をお送りします。内容的には連載物が中心となりました。何か読

233号原稿について

次号では、史談会発足60年を記念して、より多くの人々に原稿を依頼したいと思います。

60年間の史談に対する思い、願い、要望、御意見、記事等をエピソードを交えながら原稿にして、7月末まで事務局、編集部あてお送りください。「史談60年の思い」としての発行を考えています。よろしくお願ひします。

み応えのあるもの、考えさせられるものなど、このようなものがあると良いがなあ。六十年の史談の歴史をふりかえって考えられる想い、考え、記事などを求めています。まず、会員一人一人の自分の思い考えを投稿してください。通常の原稿もお待ちします是非御投稿を。